

広報 2019

令和元年
No.903

9月号

ちの Chino City

ちの市議会だより

特集

ほいくのげんば 成長のひろば

特集

ほいくのげんば ～成長のひろば～



茅野市には公立保育園（市が運営）が15園、私立保育園（社会福祉法人が運営）が2園、私立認定こども園（社会福祉法人が運営）が1園、私立幼稚園（学校法人が運営）が1園あります。

仕事などで、家庭で子どもの保育ができない保護者に代わって0歳児から小学校就学前までの乳幼児を保育する場所であるとともに、様々な体験を通して未来を担う子どもたちの成長を育む場所となっています。子どもたちは自ら気づき考え、工夫しながら遊びをくりかえすことで学びの芽ばえが培われています。

「どうしてこのだんごむし、まるくならないの？」「やった！むずかしいめいろができたよ。たのしいね」そんな声が聞こえてくる園での生活。今号では「ほいくのげんば」の様子やそこで働く保育士さんの想いなどを紹介します。

問 幼児教育課 幼児教育係

☎ 72-2101

(内線622・623)

ある1日の園の様子(北山保育園)

北山保育園の年長さんのクラスを1日取材させていただきました。



8:50 登園

子どもたちが元気に登園してきます。登園した子どもから竹馬の練習をしたりしていました。

9:00 朝の会

一日の日程の確認などを行います。この日は給食に出てくるスイカにちなんだ絵本の読み聞かせがありました。



9:30 体操

園の子どもたち全員が集まり体操をします。リズムに合わせて元気に体を動かしていました。

10:00 畑で収穫・プール遊び

畑で野菜の収穫!ナスやキュウリを収穫し給食に混ぜてもらいました。その後、隣の北山小学校のプールへ移動。大きなプールで水に親しみ、楽しんでいました。



11:30 給食

畑で収穫したナス入りのマーボー豆腐などを美味しく残さず食べていました。また大きなスイカも出てきて、みんな嬉しそうでした。

13:00 お昼寝

先生の読み聞かせとともに眠りにつきます。先生は寝ている間も子どもたちが安心して眠れるように気を配ります。



15:00 おやつ

この日のおやつはおせんべいと牛乳。お友達と仲良く話しながら食べていました。

15:20 帰りの会・お迎え

次の日のお当番さんの紹介などをして、みんなで輪になり「さようなら」のごあいさつ。「また明日」と保護者のお迎えで帰っていきました。



突撃インタビュー!

現役保育士に聞きました

「きっかけとやりがいは何ですか？」

小学生や中学生のなりたい職業ランキングで上位の保育士さん。そんな保育士さんに保育士になろうと思ったきっかけや、やりがいをお聞きしました。



一番近くで成長を見られる

よこうち認定こども園
小倉 みかさん

保育園の時の先生に憧れて

小さい頃から保育士になりたいと思っていました。私が保育園に通っていた時の担任の先生がとてもいい先生でしたので、そんな先生に憧れて私もなりたいたと思いました。

できなかったことができた時

保育士のやりがいは一番近くで子どもたちの成長を見られることだと思います。昨日できなかったことが次の日にはできていたりします。そんな姿を見られた時には嬉しくなり子どもと一緒に喜べるので、素敵な仕事だなと感じています。

子どもたちはとても発想力が豊かなので、大人が思いつかないことも言ってきたりします。そういった考えもあるんだなと思いつつながら、子どもの成長を日々感じます。



子どもを笑顔でいっぱいになりたい

中大塩保育園
丸山 陽加さん

高校生の時の授業がきっかけ

高校生の時に様々な分野の先生の話聞く機会がありました。その時に保育士の先生の話聞き、子どもの気持ちや接し方を考えるといった話から保育士という仕事に興味を持ちました。それがきっかけで職場体験にも保育園へ行きました。

日々、表情や思いをとらえながら

子どもが笑顔でいっぱいになった瞬間にやりがいを感ずります。どうして泣いているのか、何が嫌なのか分からずに悩むことは多いです。そんな時でも私の行動一つで子どもが楽しそうな表情になると嬉しくなります。子どもたちにどんな関わりをすると喜ぶか、笑顔になるかを考えながら保育という仕事と向き合っています。



心の動く瞬間を立ち会える

宮川保育園
加藤 高史さん

弟のお迎えで

中学生の時に歳の離れた弟のお迎えに行くことが多かったのですが、弟の担任である男性の保育士さんを見てなりたいなと思いました。またその時に寄ってきてくれる子どもたちと一緒に遊んでいたこともきっかけの一つです。

この仕事でしか味わえない

子どもが自ら「ごめんね」が言えた場面、周りの子ができたことを自分もできるようになりたいと努力している場面などに立ち会うと子どもの心の動く瞬間を見たと感じます。そんな子どもの成長に立ち会えることはやりがいの一つです。

また、子どもたちが頼ってきてくれた時や、保護者の方に感謝してもらった時には、この仕事でしか感じられないやりがいを感ずります。



子どもの成長に寄り添う

宮川保育園
西 太地さん

きっかけは大学生のとき

保育士になろうと思ったのは将来に悩んでいた大学生の頃。保育園の前を通りがかった時に園の様子を見て、子どもと遊ぶことを仕事にしたいと思いました。昔、団地に住んでいて小さな子どもと遊ぶのが好きだったことも理由だったと思います。そこで大学を辞めて、保育の専門学校に進みました。

日々成長する子どもたちのたくましさ

年少のクラスを担当しているのですが、四月には自分の身の回りのことができない子や泣いてしまう子もいました。そんな子たちが行事や日々の生活を通してたくましく成長しています。その成長が見られること、その成長に寄り添えるところにこの仕事のおもしろさがあると思います。

一日保育士体験

市内の17保育園・1認定こども園では、一日保育士体験を行っています。これは、保護者の方が自分の子どものクラスに入り、保育園での生活や遊び、学びの実体験をしてわが子やほかの多くの子どもたちと触れ合うことで、子どもの育ちや育児に対する視野を広げ、家庭での育児を見直す機会のきっかけ作りをしています。

希望する方は在園している保育園・認定こども園へ、希望する日をお申し込みください。



一日保育士体験 参加者の声



牛山 和宏さん

他の友達と遊んでいる様子など、普段家では見ることのできない子どもの顔を見れたことがとても印象強いです。他の子どもたちの様子を見ながら、それぞれ遊びたいことも遊び方も違うので、こちらとしてもいい発見・経験になりました。

また、先生の接し方や話し方は勉強になりました。家での生活にも生かしていきたいなと思います。



子どもが主体の場として

自らの学びを育てる

「虹を作りたいよー!」

「虹が見えるのはどんなところかな?」

「海を作りたい!」

「じゃあ海の水は塩水だよね」

園では子どもたちのやりたいことや疑問に耳を傾け、それらを形にする手助けをしています。

例えば虹を作りたいという子どもがいるクラスでは、どうしたら虹を作れるかを考え、様々な場所で作ってみようと試みました。実際に虹が見られた時には、子どもたちは大変喜びました。

海を作りたいと話した子どものクラスは、海水はどのくらいの濃さの塩水なのかを考えて、子どもたち自身で塩の量を調整して海を作り出しました。

子どもたちは多くのご興味・関心を持っています。この二つの遊びは、子どもたちの「実験をしたい!」という声から広がった遊びでした。

子どもの想いに保育士が応えていくような環境でありたいと思っています。



茅野市の保育施設すべてが、子どもが行きたいと思える場所でありたいと思っています。子ども自身が安心できる場所、自分を出せる場所、そして楽しいと思える場所でありたいですね。そのためにも保育士は言葉遣いやかわり方を工夫して、子どもたち中心の園になるように努めています。

行きたくなる園であるように

地域とともに成長を

地域の方々には、日ごろ園の子どもたちのことを気にしてくださり、とても感謝しています。これからも地域の方々と一緒に成長できる環境でありたいと思います。皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします。